

幸せな超長寿社会を目指して

株式会社三井住友銀行
執行役員ファイナンシャル・ソリューション統括部長

松本浩司 CMA



昨年暮、今話題の映画「ボヘミアン・ラブソディ」を家内と連れ立って見に行った。ご存じの方も多いかと思うが、1971年に英国でデビューした伝説のロックバンド「クイーン」の軌跡をボーカルの故フレディ・マーキュリー氏（享年45歳）を中心に描いた作品だ。公開第一週から観客動員数、興行収入ともに右肩上がり、最近ではNHKのSONGSをはじめ特集番組も多く見かける。実はわが家で最初にこの映画を見たのは大学生の次女。「パパ、クイーンって知ってる？ 映画になっているのよ。すごく面白いよ」「ハイハイ、パパが時々チョロチョロ弾いているギターの1曲は映画タイトルと同じ曲のギターソロだよ」という訳で見に行った次第だ。もう40年近く昔の話だが、中学高校時代にロックに夢中になり、フォークギターからエレキギターへ、高校時代には本当にプロになれたら、とかなわぬ夢を見たものだ。

さて、この映画、若者に大うけということで、映画館は若者ばかりかと思えばさにあらず。やはり、同世代以上が主流。中には、かなりご高齢の方々もいらっしゃり、シルバー経済健在の様相だ。

シルバー経済といえば、わが国の75歳以上のいわゆる後期高齢者の人数は、総務省の『人口推計（平成30年11月報）』によれば18年6月現